

桃浦かき生産者合同会社の挑戦

収入を安定化させ 若い人が安心して働ける 場所を桃浦に

ビジョン

若い人が安心して働ける場所を桃浦に作りたい
桃浦のかきを世界のブランドへ
桃浦の漁業継続、そして、村落の再生へ



桃浦かき生産者合同会社
代表社員
大山 勝幸 氏

「このままでは桃浦の漁業は衰退する」震災前、宮城県石巻市桃浦の漁師達は浜の水揚げの多くを占めるカキ養殖の仕事に限界を感じていた。他の多くの漁村同様、桃浦の漁業においても燃料高、設備投資コストの増加、生産者の高齢化、後継者不足と問題が山積していた。そうした中、2011年3月に震災が発生、桃浦は壊滅的な打撃を受けた。

もともと桃浦は限界集落に近く、将来的な自然消滅が懸念されていた。「単なる復旧ではいずれ同じ姿になるだけであり、将来に向け集落が維持できるような復興が必要」との考えの下、桃浦のかき養殖に企業の経営手法を導入するべく、2012年8月、地元漁業者15名により「桃

浦かき生産者合同会社（以下、「合同会社」）が設立され、同年10月、仙台市の有力水産卸事業者である株式会社水産が投資参画した。そして2013年9月、復興特区制度の活用により、合同会社に漁業権が付与され、本格的に事業を開始した。

「桃浦の漁業者は皆、将来に危機感を抱いていたものの個人の力では何もできなかった。合同会社の設立により、企業が若い人や漁業をしたい人を雇用し、桃浦での定住化を図ることで、桃浦での漁業継続と村落の再生ができる」大山氏は合同会社に桃浦の将来を託したのである。

取り組み(事業内容)

漁業者が設立した企業による「桃浦かき」の生産・加工・販売(6次産業化)

合同会社は、社員（出資者）は桃浦の漁師15名、及び仙台水産の合計16名で構成されている。漁業者自らによる生産・加工・販売の一体化（6次産業化）を行う体制を構築し、定款で定める事業として、かきの養殖・加工・販売、生鮮魚介類・水産加工品の卸・販売を行っている。

「桃浦かき」の特徴

「桃浦かき」の特徴は、身が大きく、ミネラル分が豊富な点である。

この理由として、もともと桃浦が、牡鹿半島の山林や森に囲まれ、北上川の流れに運ばれた養分が注ぎ込む良好な漁場であることに加え、

合同会社が、過剰養殖を避けることで、品質の高さを追求した生産を行っていることが挙げられる。



ブランディング・販路開拓

合同会社では、株式会社水産の協力のもと、「桃浦ブランド」の確立に力を入れており、桃浦かきの品質の高さを消費者に認知してもらうため、テレビCM・ブランドブック作成・HPでの宣伝等によるPRを積極的に行っている。また、仙台水産と協力して広げた大手量販店（スーパー）、外食チェーン、デパート等の販路を中心に、店頭販売の強化により消費者に対して「桃浦ブランド」の認知度を上げることで、リピーター作りに取り組んでいる。

課題克服のポイント

漁業者からの信頼獲得

「桃浦での漁業継続と村落の再生」という確固たる目標を持つ大山氏は、合同会社の設立に向けて「会社とは何か?」「生産計画はなぜ必要か?」「個人事業と比べ税務上の違いは何か?」といった漁業者の疑問を解消していった。従来、個人事業者であった漁業者は、合同会社の社員として給料制で働くことに当初は戸惑いもあったという。1回目の給料を銀行振り込みではなく、あえて現金で支給することで、徐々に社員との信頼関係を築いていったという。「合同会社の設立・運営にあたっては、漁業者からの信頼が何より重要であった」と大山氏は語る。



パートナーである株式会社水産からのサポート

また、合同会社の立ち上げ・運営には、仙台水産の多大なる支援があった。会社経営はもちろん、仙台水産は「産地の復興なくして我が社の復興なし」との基本姿勢をもって、会長自らが直接桃浦を訪れるなど、事あるごとに漁業者と話し合いを何度も繰り返すとともに、自らが加工・販売を手掛けるという経験がない桃浦の漁業者が合同会社を運営するにあたり、必要資金の貸付といった「金融支援」、定款・規定の作成、ITの導入等の「経営支援」、新商品開発、ブランディングといった「販売支援」、IT活用、自動かき剥き機導入、シングルシード養殖技術等の「新技術導入支援」等の様々な面から支援を行っている。



今後の課題と挑戦

新技術の導入によるかき産業の革新

合同会社では様々な新技術の導入を試みている。合同会社が取り組んでいる水産庁補助事業として導入した高圧機によるかき剥き（＝剥き不足の解消）、人工採苗シングルシード（一粒種）導入による養殖方法の革新と生産性向上（＝天然採苗による不安定な生産体制からの回避）、ITの活用による漁業の「見える化」（＝漁業者の経験と勘に頼った養殖からの脱却）は、日本のかき産業が抱える課題を解決するモデルになる取り組みと大山氏は考えている。

なお、は「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2014において優秀賞・アイリスオーヤマ賞を受賞するなど、今後の成果に期待が寄せられている。

魅力ある漁業の実現に向けて

「漁業の後継者が育たないのは、海外に比べ日本では漁業の社会的地位が低いのが原因」と大山氏は語る。2012年8月の合同会社設立以降、大山氏は同社の事業目的を世間にアピールしてきた。その結果、県内外からの入社希望者が増え、現在の従業員数は40名を数えるとともに、漁業者は合同会社で働くことに「誇り」を持つようになったという。合同会社の事業の持続性を担保するため、次代を担う人材の育成をはじめとする将来に向けた課題はあるが、「魅力ある漁業を実現し、桃浦の再生と漁業者の地位向上を目指す」と大山氏は意気込む。



【名称】 桃浦かき生産者合同会社

【連絡】 TEL：0225-25-2611 / FAX：0225-25-2612

【住所】 宮城県石巻市桃浦字ノ山66番地34

【HP】 <http://www.momonoura-kakillc.co.jp/index.html>

【代表者】 代表社員 大山 勝幸